

平成 2 5 年 9 月 猪 苗 代 町 議 会 定 例 会

町 長 説 明 要 旨

本 日 、

平成 2 5 年 第 5 回 猪 苗 代 町 議 会 定 例 会 を 招 集 い た し ま し た と こ ろ 、 議 員 の 皆 様 に は 何 か と ご 多 用 の 中 、 ご 出 席 を い た だ き 、 ご 審 議 を お 願 い で き ま す こ と に 対 し 、 深 く 感 謝 申 し 上 げ ま す 。

今 議 会 が 開 催 さ れ る に あ た り 、 平 成 2 4 年 度 歳 入 歳 出 決 算 の 認 定 を は じ め 、 平 成 2 5 年 度 一 般 会 計 補 正 予 算 案 な ど 、 重 要 な 議 案 を 提 出 い た し て お り ま す の で 、 ご 審 議 を お 願 い い た し ま す と と も に 、 議 員 各 位 の ご 理 解 と ご 協 力 を お 願 い 申 し 上 げ る 次 第 で あ り ま す 。

提 出 議 案 の 説 明 に 先 立 ち ま し て 、 当 面 す る 町 政 の 諸 課 題 に つ き ま し て 、 所 信 の 一 端 を 申 し 上 げ た い と 存 じ ま す 。

（ 介 護 保 険 料 通 知 書 に お け る 記 載 誤 り に つ い て ）

は じ め に 、 介 護 保 険 料 通 知 書 に お け る 記 載 誤 り に つ い て 申 し 上 げ ま す 。

町 が 本 年 7 月 1 2 日 付 け で 通 知 し た 「 納 入 通 知 書 、 介 護 保 険 料 額 決 定 通 知 書 兼 特 別 徴 収 開 始 通 知 書 」 に お い て 、 不 服 の 申 立 て を 説 明 す る 文 中 に

一部記載誤りがございました。

介護保険被保険者並びに町民の皆様はもとより、南会津郡只見町の関係者の方々には多大なご迷惑をおかけし、深くお詫びを申し上げます。

事実の概要であります、7月5日に外部委託で作成された通知書を担当課が納品・検収する際に誤った記載内容を見逃したまま、4,887名の被保険者宛に7月12日に発送いたしました。

その後7月17日の午前中に、被保険者から介護保険料についての問い合わせがあり、そのやり取りの中で今回の記載誤りを指摘され、判明したものであります。

その報告を受け、速やかにお詫びと訂正の文書を全被保険者に発送すると共に報道会見を行い、事実を公表するとともに関係各位への謝罪を行ったところであります。

また7月19日には只見町を訪問し、只見町長に経過の報告とお詫びを申し上げてまいりました。

これまでに38件の問い合わせがございましたが、丁寧にご説明を申し上げ、ご理解をいただき、お詫びを申し上げております。

今回の記載誤りには、介護保険料の金額などの誤りはなく、通知書の法的効力にも問題はありませんでしたが、受託業者の再発防止対策を厳しく

徹底させるとともに、出力された通知書等の全部の項目について、複数の職員で二重・三重の点検・確認を徹底させ、納入通知書の表記誤り等を未然に防止し、本町介護保険事業の適正な運営が確保されるよう努めてまいる所存であります。

（ 7 月 豪 雨 災 害 に つ い て ）

次に、7月豪雨災害について申し上げます。

本年7月初旬からの長雨に加え、7月22日から23日未明にかけての1時間に30ミリ、総雨量122ミリの集中豪雨により、町内では、床上浸水1棟、床下浸水24棟、自主避難者1世帯1名のほかに小沢川での護岸の浸食や町道川上千貫線土砂崩れ及び農地への土砂流入、法面崩壊、林道小田達沢線他8路線の洗掘などの被害を被り、特に農林水産業関係施設に多大な被害を受けた所であります。

町としては、警報発令と共に私をはじめ、関係部署の職員を招集し、情報収集や巡回パトロールの実施、第1非常配備体制に移行できる災害警戒準備体制である警戒配備を指示すると共に消防団長に消防団による河川の警戒パトロール、下水道雨水幹線小黒川流域での水防活動や避難誘導及び排水活動の指示と

警察、広域消防へも協力要請を行ったところであり
ます。

幸い、人的な被害は無く、被害を最小限に
くいとめることが出来ました。

あらためて、町民の皆様や消防団をはじめと
する消防・防災機関に対して、感謝を申し上げる
次第であります。

本災害については、8月15日に激甚災害に
指定されましたので、農林水産業関係施設を中心
に復旧事業に対し、国が今後、査定を行い、
高率の補助を受けることとなりますので、早急に
対処すると共に、災害に強い町づくりを目指して、
消防・防災設備の充実と自主防災組織の育成を
図り、町民の生命・財産を守ってまいる所存であ
ります。

（放射線除染の実施状況について）

次に、放射線除染の実施状況について申し上げ
ます。

本町内の空間放射線量は、おおむね
毎時0.06から0.21マイクロシーベルトと
なっており、ウェザリング効果等により減衰傾向
にあります。

これまで、比較的高い数値の地区や公園等の

施設を中心に町民の皆様との協働で除染を実施して安全・安心を確保してまいりました。

しかし、年間 1 ミリシーベルト以下であっても、教育施設等においては、更なる低減を図るべく、本年度は吾妻小学校、吾妻中学校の除染を終えており、これらで約 70 % の放射線量を低減することが出来ました。

さらに、町営磐梯山牧場の採草放牧地除染を現在実施中であり、これからは、町民との協働による地区除染を 2 地区で実施することとしており、これで除染計画の 2 年間の重点期間の事業を終了する見通しがたった所であります。

今後は、事故から 2 年半以上が経過し、町内の放射線量の状況は低下傾向にあり、ほとんどの地区が除染計画の目標である年間追加被ばく線量が 1 ミリシーベルト以下となっておりますので、局所的に放射線量が高くなるホットスポット対応の除染が中心になるものと考えておりますので、町民の皆さんのご要望を取り纏めながら、国・県の指導を仰ぎ、適切に対処してまいり所存であります。

（水稲の生育状況について）

次に農業情勢について申し上げます。

本町農業の基幹作物であります水稻の生育状況でありますが、梅雨明け以降は連日好天に恵まれ、気温も平年を上回っていることから順調に推移しておりますが、育苗期間中の低温や7月の長雨と日照不足の影響により、福島県をはじめ、全国的にも「平年並み」とする作況概況が発表されましたが、その後、暑い日が続いたことにより、「やや良」と改善され、この秋の豊作を期待している所であります。

一方、主食用米の供給量は、予想収穫量に在庫量を加えると国の需要量見通しを上回ることから「米余り」となることが予想されており、本年産米の価格下落が懸念されますので、食料自給率向上対策と併せて、米消費拡大についても、JAと連携を図りながら推進してまいります。

なお、本年度から、農業者戸別所得補償制度に代わって、新たな対策として「経営所得安定対策」が実施されておりますが、本町における加入状況は、集落推進員のご協力と農家の方々のご理解により、ほとんどの農家が加入され、これにより安定した農業経営が出来るものと考えております。本制度のもと、高品質米の産地として産地力の確立を図り、農業所得の向上に努めて

まいる所存であります。

（有害鳥獣対策について）

次に、有害鳥獣対策について申し上げます。

ツキノワグマ、ニホンザル、ハクビシンなどに加え、最近では、イノシシによる被害も発生するなど、有害鳥獣駆除対策に苦慮しております。

特に本年は例年より8月の降水が少なく、クマの出没が多く見受けられ、これまでに様々な対策を講じてまいりましたが、山沿いの集落を中心に農作物等への被害が拡大している状況にあります。

このため、有害鳥獣から農作物等を守るのに大きな効果が見込める電気柵の設置を農家の方々の協力をいただき実施しておりますが、予想以上の効果があることから、電気柵設置事業補助である「有害鳥獣対策事業補助制度」を推進して、農作物の被害防止に努めてまいります。

また、有害鳥獣から農作物等を守るには、被害対策を行う集落や農家の方々が鳥獣の行動や習性などについて理解することが重要でありますので、本年度は6月から毎月1回、のべ10回にわたって専門家を講師に招いて

「いなわしろケモノ塾」を開講しているところであります。

更に、鳥獣の出没・被害状況や今後の出没予想等について、メールマガジンにより鳥獣情報を毎日、配信し、被害防止に効果を挙げております。

今後、集落や農家の方々と協力しながら、出来得る対策を講じて、丹精込めて育てた農産物等を有害鳥獣から守ってまいる所存であります。

（農産物等ブランド化推進事業について）

次に農産物等のブランド化推進事業について申し上げます。

東京電力福島第一原発の事故から間もなく2年半が経過いたしますが、未だに本県農林水産物のイメージは低下し、震災前の価格に戻っていない農産物もございます。

このため、町としては、付加価値の高い農産物や6次化の加工品等を「猪苗代ブランド」として、広くPRし、地域のイメージを高め、ひいては生産振興と雇用の拡大、そして観光客の増加等により本町の活性化を目指すことが急務であると考えております。

そのため、それらブランド化に係る調査、研究及び推進に向けた組織として、県や関係機関等の

ご協力のもと

「猪苗代町農産物等ブランド化推進委員会」を立ち上げたところであります。

本委員会の当面の事業として、水稻の県オリジナル品種である「天のつぶ」を本町の主力品種として推奨し、ブランド化を図ると共に安全で健康に良い農産物を

「仮称いなわしろ健康一番町ブランド」として販売促進を図っていくことにしております。

ブランド化による農産物等の差別化を図り、地域間競争を勝ち抜き、生産力の高い農業を目指し、地域の活性化と農家所得の向上に寄与してまいり所存であります。

（経済・雇用情勢について）

次に、経済・雇用情勢について申し上げます。

わが国の経済状況については、内閣府が8月12日に発表した本年4月から6月までの国内総生産GDPは、物価変動の影響を除いた実質年率換算で2.6%の増加と2四半期続けた成長率となりました。

GDPの柱である個人消費が0.8%の増と高水準を保ったことによるものであります。

次に県内の経済情勢は、財務省福島財務事務所

の「県内経済情勢報告」によりますと、本年４月から６月期は、「県内の経済は一部に弱さが見られるものの、持ち直している。」と総括判断をしております。

さらに、本町の経済情勢の指標のひとつとなる、本年１月から６月までの観光の入り込み数は、約８８万２千人と前年比で０．８％とわずかではありますが、増加しているものの、震災前の２２年と比較しますと１４％の減少となっております。

これは、風評被害による首都圏の団体客、とりわけ小中学校の教育旅行の回復の遅れが大きな原因と捉えております。

また、増加の要因は、これまでの風評被害対策の効果と、ＮＨＫ大河ドラマ「八重の桜」の効果によるものと捉えております。

この夏の入込は、町内の体育施設等の予約状況から推測して、陸上競技場等の整備などの充実した施設の効果から県外からの高校、大学の夏季合宿が回復しつつありますので、今後は、合宿の里として、体育系の合宿以外にも、体験交流館「学びいな」を活用した合宿の誘致にも力を入れてまいります。

次に、雇用情勢では「ハローワーク会津若松」

の 8 月 月 例 報 告 に よ り ま す と 、 本 年 6 月 の
月 間 有 効 求 人 倍 率 は 、 全 国 が 0 . 9 2 倍 、 県 内 が
1 . 2 9 倍 、 会 津 若 松 管 内 が 0 . 9 1 倍 と な り 、
前 年 比 で は 、 4 0 ケ 月 連 続 の 上 昇 と な っ て お り ま
す。

また、7 月 現 在 で の 、 来 年 3 月 卒 業 の
「 高 等 学 校 卒 業 予 定 者 」 を 対 象 と し た 求 人 受 理 状
況 は 、 求 人 件 数 は 5 2 1 人 と な り 、
リーマンショック及び震災不況以降、右肩上がり
で順調な伸びで推移しております。

このように、雇用の環境は改善されつつあるこ
とから、「就職フェア」や「無料職業紹介所」を
活用して、さらなる雇用の確保に努めてまいり
所存であります。

（ 観 光 振 興 に つ い て ）

次に、観光振興について申し上げます。

東京電力福島第一原発の事故から間もなく
2 年 半 が 経 過 し 、 こ れ ま で は 風 評 被 害 の 払 し よ く
を 目 的 に 様 々 な 事 業 を 講 じ て ま い り ま し た が 、
「 風 評 被 害 」 と い う マ イ ナ ス の イ メ ー ジ か ら 脱 却
し て 、 攻 め の 観 光 振 興 を 行 う 時 期 に 来 て い る も の
と 考 え て 、 観 光 振 興 対 策 を 講 じ て ま い り ま し た 。

6 月 には、猪苗代湖畔において初の民間主催の

キャンプイベントが約 1, 000 人の参加者を
得て盛大に開催され、本町の魅力を十分に堪能し
て頂きました。

また、「野口英世記念館」をスタートとする
「サイクルエイド、ジャパン」では約 300 台の
サイクリングが 2 日間にわたり猪苗代湖を周回す
るコースで開催され、それぞれのイベントでは、
猪苗代産の特産品や観光・物産の P R などと、
「食の安全・安心」についての啓発を行った所で
あります。

8 月 13 日には「復興・花火大会」として昨年
より 1, 000 発多い、3, 000 発の花火を
打ち上げて、これまでにないすばらしい花火大会
となりました。

今年は、告知ポスター以外にメディアを活用し
た効果と好天に恵まれたおかげで、
昨年を大きく上回る約 13, 000 人の来場者と
なり、来場いただきました皆様一人一人が
猪苗代町の「安全・安心の風」を感じていただき、
新たな猪苗代の風を広く発信できたものと確信し
ております。

次に、町外における P R 活動としては、今月に
長野県伊那市高遠町で開催される

「高遠ご城下まつり」に、10 月には

「東京都豊島区ふくろう祭り」など、２回にわたって観光ＰＲと物産展を実施することとしております。

１１月には、静岡県三島市で開催される「菊まつり」に参加して、親交を深めると共に本町の魅力等をＰＲすることにしております。

さらには、本年も猪苗代スキー場「ミネロ」において「風とロック芋煮会２０１３」が開催されますので、「猪苗代のそば」、「猪苗代牛」や「芋煮」などの提供をおこない、本町の「食の安全・安心」を発信してまいります。

ほかに、夏以降の対策として、インターネット誘客事業の「楽天クーポン事業」を、冬に向けては、「冬季猪苗代観光商品券発行事業」「ゆきいち券発行事業」などを活用して冬季シーズンに向けた誘客活動を関係団体と連携を図りながら積極的に実施して、攻めの観光振興を展開してまいる所存であります。

（原子力損害の損害賠償請求と支払い状況について）

次に、東京電力に対する町内事業者の損害賠償請求と賠償の状況について申し上げます。

東電福島原子力補償相談室によれば、
7月末日現在の本町事業者による損害賠償請求は、
1,134件約45.2億円、賠償金の支払いは
38.4億円となっております。
残りの約6.8億円は現在確認手続き中とのこと
であります。

また、町からの損害賠償請求については、
未だに賠償金の支払いが無く、
現在個別の事項ごとに支払い請求を行うべく、
協議中であります。

本議会での平成24年度の決算が認定されれば、
直ちに、平成24年度分の損害賠償金の請求をす
ることにしております。

今後も毎週木曜日に町商工会で開催される
東電原子力相談室の相談会の周知徹底を
図ると共に県弁護士会などによる相談会の情報を
提供して、町内事業者の皆様が損害賠償請求漏れ
がないよう周知に努めてまいります。

（猪苗代湖ハーフマラソン2013について）

猪苗代湖ハーフマラソン2013について申し
上げます。

今年も第3回目となる
「猪苗代湖ハーフマラソン」を10月27日に

開催する予定であります。

本大会は、町と福島陸上競技協会、福島民報社、福島民友新聞社の4団体が主催し、ゼビオ株式会社の特別協賛を得て開催するものであり、福島県を代表する猪苗代湖北岸をコースにする大会であることから毎回、県内外から2千人を超える参加者があります。

磐梯山と猪苗代湖が織りなす雄大で美しい景観を満喫できるコースとなっており、沿道での声援が温かく嬉しかったという声も多くいただいております。

今年は、告知や周知を早い時期から展開し、新たに10キロコースを加えるなど、多くのランナーが参加できる大会になりました。

地元参加者の勧誘はもちろん、ゲストランナーとして昨年に引き続き、佐藤敦之選手、日本最速の市民ランナーで知られる川内優輝選手、元ビーチバレーボール選手の浅尾美和さんらをお迎えし、約3千人近い参加者が見込まれる大会となる予想であります。

町民挙げての応援、おもてなしは、スポーツ振興宣言の町として欠かせないものであり、今年も皆様の温かいご支援、ご協力をお願い

申し上げます。

本大会をとおして、東日本大震災による未曾有の被害に加え、深刻な原発問題を抱え困難に直面している福島県の風評被害を払拭し、福島県の安全安心、そして優雅な自然や美しい風土を日本全国のみならず世界に向けて発信し郷土の復興につなげてまいる所存であります。

（第 6 3 回 全国高等学校スキー大会について）

次に第 6 3 回全国高等学校スキー大会について申し上げます。

来年の 2 月 4 日から 8 日にかけて開催される本大会は、本町で開催されるのは 2 9 年ぶり 4 回目となります。

種目としてはアルペン競技とクロスカントリー競技の 2 種目であり、大会の規模は、参加都道府県は 4 0 を超え、監督、選手、役員、大会関係者合わせて約 2 千数百名の方々をお迎えすることになります。

大会スローガンやシンボルマークも決まり、準備も着々と進んでいるところであり、本町としては、アルペンゴールハウスの整備やクロカンコースの整備などハードの部分の支援と

運営役員等の人的支援も行っていく考えであります。

本大会を通して、スキー競技力の向上とスキー振興はもちろんのこと、冬の猪苗代の魅力を全国に発信する絶好の機会と捉え、これからの誘客に繋げる万全の体制を敷^しいて受入をしてまいりる所存であります。

（提出議案）

最後に、本定例会に提出いたしました議案について申し上げます。

提出いたしました案件は、

平成24年度決算の認定案件が3件

平成25年度補正予算案件が13件

条例の一部改正案件が1件、

財産の取得案件が1件

過疎地域自立促進計画の一部変更案件が1件

人事案件が2件の計21件であります。

まず、認定第1号「平成24年度猪苗代町歳入歳出決算の認定について」であります。

一般会計及び特別会計に係る決算書と

監査委員の「平成24年度猪苗代町各会計決算及び各基金運用状況審査意見書」と

「平成24年度地方公共団体の財政の健全化に関

する法律に基づく審査意見書」を添えて提出しております。

また、一般会計及び特別会計の会計別概要につきましては、別に提出しております

「平成24年度決算にかかる主要な施策の成果実績概要書並びに基金運用状況報告書」のとおりであります。

決算の内容につきましては、会計管理者に説明いたさせますので、何卒ご認定賜りますようお願い申し上げます。

次に、認定第2号「平成24年度猪苗代町病院事業会計決算の認定について」及び認定第3号

「平成24年度猪苗代町水道事業会計決算の認定について」であります。各々の決算書と監査委員の「歳入歳出決算の審査意見」と

「平成24年度地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく審査意見書」を添えて提出しております。

決算の内容につきましては、保健福祉課長及び上下水道課長に説明いたさせますので、何卒ご認定賜りますようお願い申し上げます。

次に、同意第1号「猪苗代町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて」であります。猪苗代町教育委員会委員の穴澤周一氏が

平成 25 年 9 月 30 日をもって任期満了となりますので、

猪苗代町大字若宮字山崎乙 785 番地 1

二 瓶 和 夫 氏

を適任と認め任命したいので、同意を求めるものであります。

同意第 2 号「千里地区財産区管理会の委員の選任につき同意を求めることについて」であります。千里地区財産区管理会の委員に欠員が生じたため、

猪苗代町大字千代田字打越分乙 11 番地

小 林 浩 信 氏

を適任と認め選任したいので、同意を求めるものであります。

以上、提出案件につきまして、ご説明申し上げましたが、各議案の細部につきましては、それぞれ所管の課長に説明いたさせますので、慎重にご審議のうえ、速やかなご議決を賜りますようお願い申し上げます。

どうぞよろしくお願いいたします。

以 上